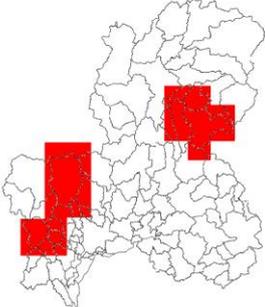


サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i> Camb.	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		バラ科
選定理由	県内では産地がかなり限られる非常に稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	落葉低木。茎は長く伸び、平伏し、細い。刺は細い。葉は5(-7)小葉の羽状複葉。頂小葉は菱状-三角状卵形、鋭尖頭、基部は鋭形-切形、しばしば3裂、二重浅裂鋸齒縁。側小葉は小さく、卵形、鈍頭または鋭頭。花は単(-3)生、径2cm弱、5-6月。萼片は披針形。花弁は白-紅紫色、倒卵形-さじ形、傾上から斜めに開出する。雄蕊多数。雌蕊多数。果托は卵球形。果実は球形、赤色。	
生態的特徴	低地、山地、亜高山の明るい草地や林内、林縁、林道わき、伐採跡地などにやや稀に生える。	
分布状況	本州、四国、九州の低地から山地のかなり高標高部までの開けた場所、林縁に稀。台湾、朝鮮、中国。県内では山地から亜高山の林縁や伐採跡地に非常に稀。特に林縁は主要な生育地になっている。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する樹林化のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	山林管理の促進による低~中茎草地の維持。	
特記事項	エゾキイチゴ <i>Rubus idaeus</i> L. と少し似ているが、花序には花は多数着かず、普通単生することで区別できる。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 23. <i>Rubus</i> L. N. Naruhashi	

文責: 高野裕行